

第5学年 算数科学習指導案

1 単元 「百分率とグラフ」

2 単元について

(1) 基礎・基本

① 本単元で育てる基礎・基本のA, B, C

割合、百分率、歩合などの意味について理解し、それらを帯グラフ、円グラフに表したり、用いたりすることができるようにする。

○ 資料を考察する場合に、全体と部分、部分と部分の関係を表す割合を用いようとする。(関心・意欲・態度)

A 資料を全体と部分の関係としてとらえ、数量の比べ方を考えることができるようにする。(数学的な考え方)

B 2つの数量の関係を表す割合を求めたり、資料全体と部分などの関係を表す割合を帯グラフや円グラフに表したりすることができるようになる。(表現・処理)

C 2つの数量の関係を表す割合の求め方や、帯グラフや円グラフのかき表し方を理解することができるようにする。(知識・理解)

測定は、未測量を数値化するとき単位量の幾つか分であるかを調べるものである。これに対して、既測2量に対比して基準量を1とみると比較量が幾つかとみられるかを調べることが割合である。基準量を1として、それに対する割合を分数や小数で表すこともできるが、日常では、基準量を100として、それに対する割合で表す百分率が用いられることが多い。これは、割合をなるべく整数で表そうとするためである。百分率の学習では、割合を整数で表すことにより気付かせることを大切にす。また、割合が帯グラフや円グラフに表されることで全体と部分、部分と部分の関係がとらえやすいことに気付かせ、資料を帯グラフや円グラフに表したり、読みとったりできるようにする。

したがって、本単元を学習をすることは、百分率や歩合を用いると割合を整数で表すことができるというよさから実生活において活用したり、帯グラフや円グラフを取り上げ、目的に応じて資料を分類整理する技能を身に付けさせるうえで価値ある単元である。

なお、本単元の内容は、第6学年「分数のかけ算とわり算」の分数の乗除法の意味の拡張に発展し、計算の仕方を工夫したりして、筋道立てて考えたりするなどの数学的な考え方を深めていくことになる。

② 本単元を支える基礎・基本のa, b, c (考えをつくり出す基の考え)

a 資料をグラフに表したり、グラフをよんだり調べたりすることができる⇒B, C

b 小数倍の意味が分かり、求めることができる。⇒A, B

c 小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができる。⇒B, C

③ 本時学習を支える基礎・基本のa', b', c' (考えをつくる基の考え)

1組⇒124頁参照, 2組⇒127頁参照

(2) 指導方法の工夫改善

① 児童の実態

- 1 算数の学習はおもしろいですか。
- 2 問題の解き方が分からない時、いろいろ考えようとしていますか。
- 3 問題が解けた時、別の解き方を考えようとしていますか。
- 4 自分の考えと友達の考えの違うところや同じところを考えながら聞いていますか。
- 5 友達の考えのよさに気づくことができますか。
- 6 友達と話し合っ自分の考えを見直すことができますか。

図1 算数についての意識
(1学期末の意識調査の結果)

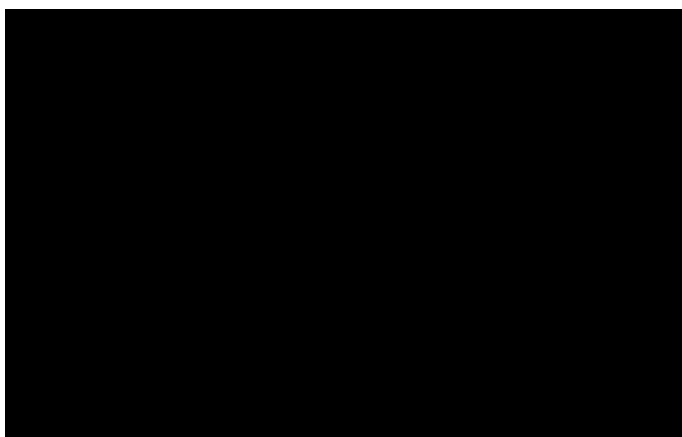


図1の2の項目「問題の解き方が分からない時、いろいろ考えようとしていますか。」から問題の解き方が分からないときでも、いろいろと考えて解こうとする割合が比較的高いことから、自力で解こうとする態度が育ってきているように思われる。しかし、別の解き方を考えたり、自分の考えと友達の考えを比べて聞いたりする態度があまり高くない。換言すると、一つの方法で解いたことに満足し、多様・多面的に考えたり、友だちの考えを聞き、考えを深めたり広げたりしようとする意識が薄いと思われる。

これらのことから、多様・多面的に解くことができた喜びを味わわせるための手立てや、多様・多面的に考え

たことを深めたり、広げたりする手立てに不十分さがあつたことが考えられる。

本単元を支える基礎・基本の a, b, c	正答率
a 資料をグラフに表したり、グラフをよんだり調べたりすることができる。	56%
b 小数倍の意味がわかり求め方ができる。	56%
c 小数の乗法及び除法の意味ついて理解し、それらを適切に用いることができる。	67%

表1 本単元に関わる既習内容の定着の度合い

え、大きい数÷小さい数と言うことで式に結びつけ、計算するなどb小数倍の意味をつかめていない傾向にあると考える。

これらのことから、bの内容を考えた問題の工夫が必要だと考える。

- 1 数学的な考え方
- 2 表現・処理
- 3 知識・理解

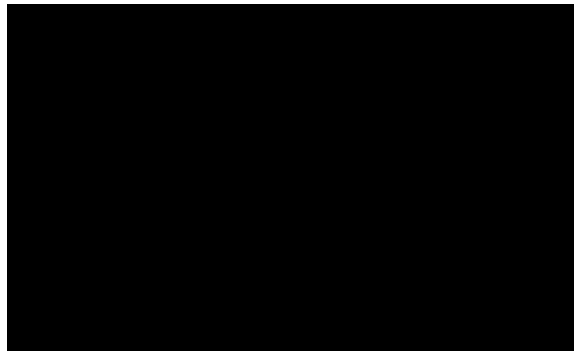


図2 本単元の事前テストの結果

表1から、6割近い児童が、a資料をグラフに表したり、グラフをよんだり調べたりすることができることが分かる。そして、割合を求めるのに必要なb小数倍の意味がわかり求め方やc小数の乗法及び除法の意味ついて理解し、それらを適切に用いることができる児童が6割～7割いることが分かる。

補充指導後、8割以上の児童が、a, b, cを達成できている。

しかし、小数倍を求めるときに、2量の関係の式の表し方を単純に考

図2の中で最も高い数値が、資料をもとに帯グラフや円グラフに表す問題の正答率19% (12人) だったことから、本単元に関して、多くの児童が未習であることが分かる。また、数学的な考え方を問う問題では、「割合」という言葉が出てきたことから、その言葉が出てきた時点であきらめて問題を解こうと言う意識が薄れ、立式さえしていなかった。この単元の学習内容に対する抵抗感はかなり高いと考えられる。

学習内容を丁寧に身に付けさせながら、また既習内容を活用しながら問

題解決を行う学習展開が必要である。

- ② 本単元の系統表 (⇒122頁参照)
- ③ 指導・支援について

○ 本単元に関わる既習内容については、児童の既習内容の把握をするために倍・乗除計算・グラフなどに関する前提条件テストのやり直し→類題の解決→やり直しのサイクルで、学力パワーアップタイムなどを使って、本単元の導入までに補充をする。特に、理解の不十分な児童には、個別に支援する。

○ 本単元で身に付けさせたい基礎・基本は、割合、百分率、歩合などの意味について理解し、それらを帯グラフ、円グラフに表したり、用いたりすることであるとする。

本単元の指導にあたっては、割合を使っている具体的な場面を提示し、割合の見方・考え方に興味をもたせ、導入問題へとつないでいく。

第1次では、割合の意味を理解させるとともに、比較量・基準量をもとに割合を求めたりする。さらに、百分率や歩合で表す方法を学習していく。割合の意味を理解させる上では、数直線図や線分図などの絵図を活用し、数量の関係を十分に把握できるようにする。

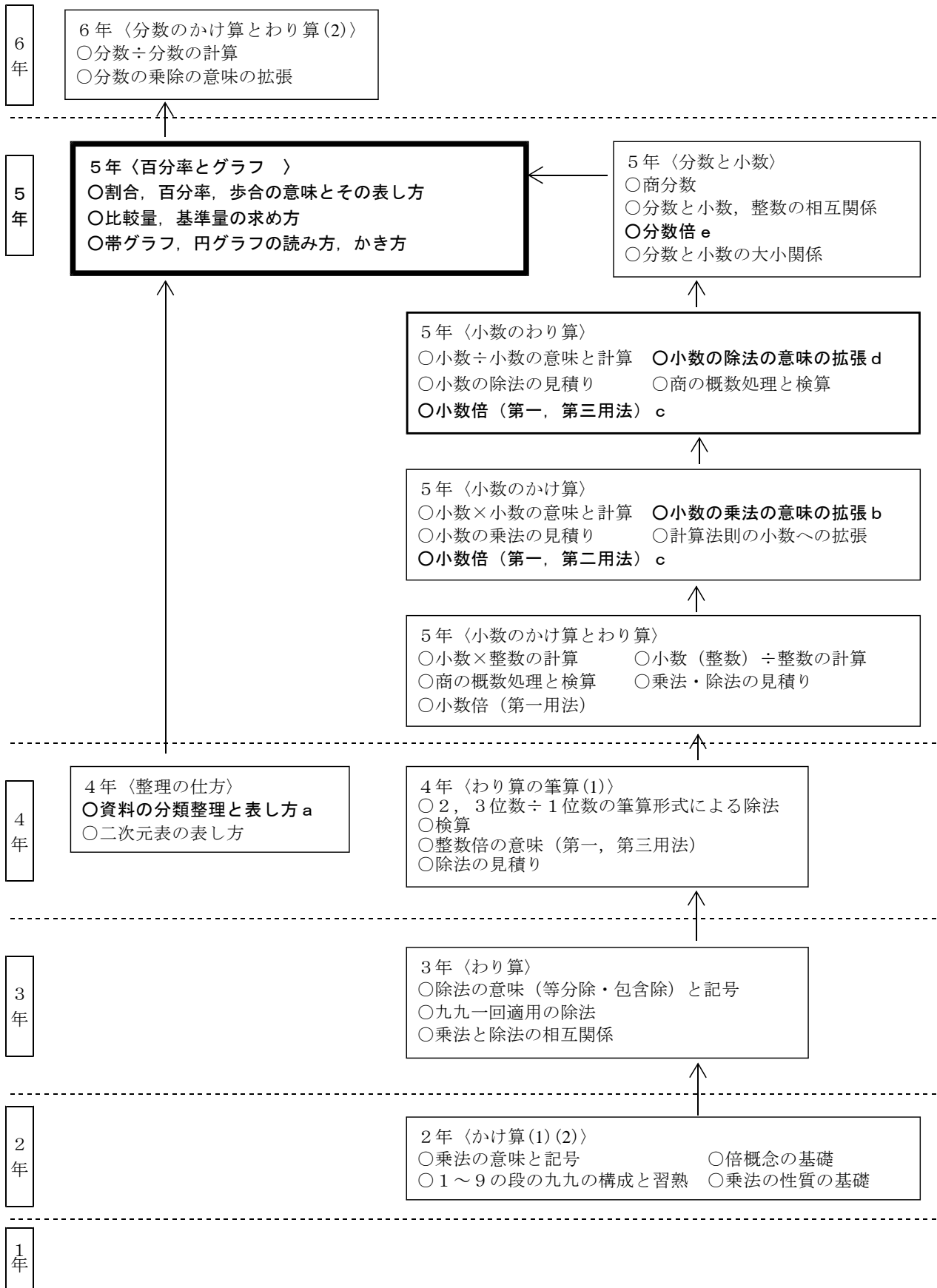
第2次では、百分率の問題に取り組んでいく。ここでは、数直線図を積極的に活用して数量関係をとらえさせ、□を使って式を立てるといった一連の指導を通して演算決定できる力を身に付けさせる。

第3次では、割合を表すグラフについて取り扱う。まずは、今までに学習した折れ線グラフや棒グラフでは表すことができないことを感じさせ、割合を表す帯グラフ・円グラフを読んだり、かいたりする学習へと進んでいく。帯グラフや円グラフの読み方やかき方を身に付けさせるとともに、帯グラフや円グラフのよさや分かりやすさ、日常的にもよく使われていることにも目を向けさせていくようにする。

また、単元全体を通して、既習内容の掲示物を生かしたり、ヒントカードを使いながら、個に応じたきめ細かい指導を行うようにする。また、座席カルテを活用して、考えをつくり出す基の考えやその定着の実態や本時の児童の考え方の把握に生かしていくようにする。

百分率とグラフ

目標： 割合、百分率、歩合の意味について理解し、それらを帯グラフ、円グラフに表したり用いたりすることができるようにする。



(3) 指導計画 (全 13 時間)

小単	時	学 習 内 容	学習 形態	評価の観点			評 価 規 準
				関	数	表 知	
割合と百分率	1	割合の意味 (比較量, 基準量) の理解	一斉	○			数量を比べるときに, 全体と部分の関係をとらえようとしている。
	2				○		数量を比べるときに, 全体を 1 とみて部分の量を表し, 比べる方法を考えている。
	3	百分率の意味と表し方	一斉			○	割合を百分率で表したり, 百分率で表された割合を小数で表したりすることができる。 百分率の表し方を理解している。
百分率の問題	4	比較量の求め方	一斉			○	比較量を求めることができる。
	5	基準量の求め方	一斉			○	基準量を求めることができる。
	6	和や差を含んだ割合の求め方	一斉			○	和や差を含んだ割合から, 比較量や基準量を求めることができる。
	7	[力をつけよう] [ものしりコーナー] ・学習内容を定着 ・数量的な日常の事象の確認	一斉	○		○	学習内容を正しく用いて, 問題を解決することができる。 資料を数量的に考察するのに割合を用いて考えようとしている。
割合を表すグラフ	8	帯グラフや円グラフの読み方や特徴の理解	一斉		○		全体に対する部分の割合をグラフに表すと, 大きさの関係が分かりやすくなることに気づいている。
	9					○	帯グラフ, 円グラフの読み方を理解している。
	10	帯グラフや円グラフのかき方	一斉	○		○	資料の数量の割合を帯グラフや円グラフに表そうとしている。 帯グラフや円グラフをかくことができる。
	11	[やってみよう]	一斉	○			学習内容を適切に活用して, 活動に取り組もうとしている。
まとめ	12	[たしかめよう] [おもしろ問題にチャレンジ]	一斉			○	基本的な学習内容について理解している。 学習内容をもとにじっくり考え, 追求する。
	13	事後テスト	一斉	○	○	○	学習内容を理解し, それを用いることができる。

活動性と協働性を重視した学習展開

1 本時の目標

- 数量を比べるときに、全体を1とみて部分の量を表し、比べる方法を考えることができるようにする。
(数学的な考え方)

2 本時授業仮説と仮説検証のための具体的な手立て

(1) 本時授業仮説

基準量も比較量もちがう場合の比べ方を考える学習において、次のような手立てをとれば、児童は、課題をはっきりととらえ、多様・多面的に考えて問題解決を行い、共に働きかけ合い考えを深め広げながら、割合の学習の基礎・基本を身に付けるであろう。

- 考えをつくる基の考えに対する実態とその支援を載せた座席カルテの活用（自力解決）
- 問題の工夫
- 児童の考えを把握する座席カルテの活用（自力解決）
- 考えを高めるカギの活用（対比型交流）

(2) 仮説検証のための具体的手立て

- 考えをつくる基の考えに対する実態とその支援を載せた座席カルテの活用（自力解決）

2量のデータの比較をする場合、本時では、基準量を1とみて比較量が基準量の何倍かを求めて比較することができる。この「倍」という考えをつくる基の考えとして、次の3つが必要になる。

- a' 数直線図を正確にかくことができる。
- b' 小数の除法の計算ができる。
- c' 小数倍の意味が分かる。

このうち、考えa'については、〇〇タイムや家庭学習を使って、ほぼ全員ができるまでになってきている。考えb'についても、学力パワーアップタイムや〇〇タイムを使い、定着を図っていく。考えc'については、ヒントカードをや個別の助言で支援していく。また、考えa', b', c'が不十分な児童については、座席カルテに載せ、本時の机間指導に役立てていく。

- 問題の工夫
本単元において、小数倍で表されている対比2量の関係を、1とみると比較量がどれだけの割合かとみるかという、割合の見方でとらえられるようにするところにねらいがある。しかし、児童にとって1より小さい割合は、理解が難しい。

そこで、問題の工夫として、3つのゴムの伸び率で考え、1より大きな割合としてとらえ「倍」の考えを活用できるようにする。

- 児童の考えを把握する座席カルテの活用（自力解決）
もとの長さの何倍伸びているかわり算で求めて考えている児童の把握を行う。また、違う考えである差で考えるという方法でも、問題を解かせ、どちらが正しい方法なのかを考えさせる。自分の考えをもつことができたなら、分かりやすく筋道立てて説明できるように、ノートに言葉で説明を書かせるようにする。さらに、発表の場でそれぞれの意見の交流がスムーズにできるように、児童の考えを広げ深めるための準備をしておく。

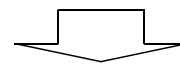
- 考えを高めるカギの活用（対比型交流）

まずはじめに、カギ「似ている考え方は」を使い、㉞数直線での考えと㉟わり算（もとの長さの何倍伸びているか）の2つの考えを比べ、「どちらももとの長さを1とみている」ことに気付かせる。㉞㉟の両方の考え方も答えが同じであることを確認する。さらに、㉞㉟の考えと㉟差で考える考え方を比較する。カギ「違う考え方は」を使い、「ひき算で考えているとわり算で考えている」ことに気付かせる。㉟のやり方での答えが違うことに反例を挙げて、㉞㉟の考え方の正しさに気づかせる。最終的には、㉞㉟の考え方をもとに、明瞭性から見方からもとの長さを1とみて考えるよさに気付かせまとめていく。

本時学習指導過程

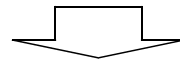
〈本時の学習までに〉

a'・b'・c' についての
把握・補充



〈本時導入〉工夫

「倍」の意識をよりしやすい問題



把握（座席カルテ）

児童の考えの把握

- ㉞数直線で考えている
- ㉟わり算（もとの長さの何倍伸びているか）
- ㊱差で考えている



交流

〈話し合い1〉

- ㉞と㉟の似ているところ

〈話し合い2〉

- ㉞㉟と㊱の違いからまとめる
- ㉞㉟のわかりやすさでまとめる

3 学習過程

配時	学 習 活 動	指導の意図と手立て (※個に応じた手立て)	評価の観点												
8分	<p>1 はっきりつかもう。 (1) 学習問題を確認する。</p>	<p>○本時に関係のあるゴムを提示することで、児童の興味・関心がもてるようにする。</p> <p>問題 3種類のゴムがあります。このゴムを伸ばすと下のようになりました。</p> <table border="1" data-bbox="411 409 1023 656"> <thead> <tr> <th></th> <th>もとの長さ</th> <th>伸びた後の長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>8 cm</td> <td>12 cm</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>10 cm</td> <td>12 cm</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>10 cm</td> <td>14 cm</td> </tr> </tbody> </table> <p>A, B, C どのゴムが一番伸びるでしょうか。</p>		もとの長さ	伸びた後の長さ	A	8 cm	12 cm	B	10 cm	12 cm	C	10 cm	14 cm	
	もとの長さ	伸びた後の長さ													
A	8 cm	12 cm													
B	10 cm	12 cm													
C	10 cm	14 cm													
15分	<p>2 こんなめあてでやってみよう。 (1) めあてを確認する。</p> <p>(2) 見通しを立てる。 (結果の見通し) ・ Aのゴム ・ Bのゴム (方法の見通し) ・ ひき算で ・ わり算で ・ 数直線をかいて</p> <p>(3) 見直しをもとに、自分の考えをつくる。</p>	<p>めあて どのゴムが一番伸びるか、比べ方を考えよう。</p> <p>本時学習での考えをつくる基の考えとその支援</p> <p>(1) 考えをつくる基の考え a' 数直線図を正確にかくことができる。 b' 小数の除法の計算ができる。 c' 小数倍の意味が分かる。</p> <p>(2) 支援 a' が不十分な児童に対して… あらかじめ数値を記入した数直線図をカードとしてもたせ考えさせる。 b' が不十分な児童に対して… 計算の仕方を個別に確認する。 c' が不十分な児童に対して… 倍について表した学習のカードを見せ、倍について想起させる。 不十分な点が複数ある児童に対して… あらかじめ数値を記入した数直線図をカードとしてもたせ考えさせる。</p> <p>○予想される反応は、次の通りであろう。 ⑦ 数直線で考える</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>A</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>(cm)</p> <p>(倍)</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>B</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>(cm)</p> <p>(倍)</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>C</p> </div> <div style="margin-left: 20px;"> <p>(cm)</p> <p>(倍)</p> </div> </div> </div> <p>A: $12 \div 8 = 1.5$ B: $12 \div 10 = 1.2$ C: $14 \div 10 = 1.4$ <small>答え Aのゴム</small></p> <p>⑧ わり算(もとの長さの何倍伸びているか)で考える A: $12 \div 8 = 1.5$ B: $12 \div 10 = 1.2$ C: $14 \div 10 = 1.4$ <small>答え Aのゴム</small></p> <p>⑨ 差で考える A: $12 - 8 = 4$ B: $12 - 10 = 2$ C: $14 - 10 = 4$ <small>答え AとCのゴム</small></p> <p>○既習学習をもとに見直しをもつことができていますか。</p> <p>○解法を1つは見出せていますか。</p> <p>※座席カルテをもとに机間指導を行い、支援する。</p>													

17分

3 **さ**あ発表しよう。
(1) 解決の結果を話し合う。

5分

4 **き**ちんとまとめよう
(1) 比べ方のまとめをする。

まとめ もとの長さを1とみて何倍かを見つけるやり方が分かりやすい。

(2) 「今日の学習で」を書く。

考えを高めるカギと話し合わせ方 (対比型交流)

①カギ「似ている考え方は？」
⑦⑧とももとの長さを1とみている

②カギ「違う考え方は？」
⑦⑧はわり算, ⑨はひき算

③明瞭性「分かりやすい考え方」⑦⑧のよさに気付く

○座席カルテを活用し、児童の考え方を把握する。
※それぞれの考えを発表させ、自分の立場を明らかにさせる。

○類似点, 相違点や明瞭性を考えているか。

○協働性に関する観点で感想を書くようにする。
※書きにくい児童には、みんなで話し合ったよさについて書くように個別に支援する。

○次時への学習への意欲が見られるか。

4 学習構想図

百分率とグラフ

問題 種類のゴムがあります。
このゴムを伸ばすと下のようになりました

	もとの長さ	伸びた後の長さ
A	8	12
B	10	12
C	10	14

A, B, Cどのゴムが一番伸びるでしょうか。

めあて
どのゴムが一番伸びるか、比べ方を考えよう。

まとめ
もとの長さを1とみて何倍かを見つけるやり方が分かりやすい。

①似ている考え方は？もとの長さを1とみている

②違う考え方は？わり算とひき算

⑦ 数直線で考える

A $12 \div 8 = 1.5$ B $12 \div 10 = 1.2$ C $14 \div 10 = 1.4$
答え Aのゴム

⑧ わり算(もとの長さの何倍伸びているか)で考える
A $12 \div 8 = 1.5$
B $12 \div 10 = 1.2$
C $14 \div 10 = 1.4$
答え Aのゴム

⑨ 差で考える
A $12 - 8 = 4$
B $12 - 10 = 2$
C $14 - 10 = 4$
答え AとCのゴム

(見通し)
〈結果〉
・Aのゴム
・Bのゴム
・Cのゴム
〈方法〉
・ひき算で
・わり算で
・数直線で

活動性と追究性を重視した学習展開

1 本時の目標

- 和や差を含んだ割合の問題を解決する時に、既習の比較量や基準量を求める式に着目して考えている。(数学的な考え方)
- 和や差を含んだ割合から、比較量や基準量を求めることができる。(表現・処理)

2 本時授業仮説と仮説検証のための具体的な手立て

(1) 本時授業仮説

和や差を含んだ割合を考える学習において、次のような手立てをとれば、児童は、課題をはっきりととらえ、多様・多面的に考えて問題解決を行い、友だちとよさを認め合って考えを深め広げながら、割合の学習の基礎・基本を身に付けるであろう。

- 考えをつくる基の考えに対する実態と、その支援を載せた座席カルテの活用 (自力解決)
- 問題の工夫
- 児童の考えを把握する座席カルテの活用 (自力解決)
- 考えを高めるカギの活用 (独立型交流)

(2) 仮説検証のための具体的手立て

- 考えをつくる基の考えに対する実態とその支援を載せた座席カルテの活用 (自力解決)

和や差を含んだ割合の問題では、百分率を小数で表したり、比較量の求め方を使ったりして計算していく。そこで、本時の考えをつくる基の考えとして、次の3つが必要になる。

- a' 百分率を小数で表す。
- b' 比較量を求める。
- c' 線分図をかくことができる。

このうち、考え a' や考え b' については、〇〇タイムや家庭学習を使って、ほぼ全員ができるようになってきている。考え c' については、前時までの比較量や基準量を求める問題において活用した数直線に、問題文にあうように付加していくことを、支援していく。

その際、具体的な書き方が分からない児童については、カルテに記入していき、ヒントカードを用意して支援していく。

- 問題の工夫


ここでは、割りびきという言葉をはじめて学習する。そのため、問題を提示する前にまず日常的に見られる 10%びきと書かれた広告を使って、割りびきとはもとの値段より安くなることを押さえたい。

問題では、ぬいぐるみを「30%びき」で買うという、児童にとって身近な買い物の場面について考える問題を設定した。これによって、児童の関心が高まるものと思われる。また、単に文で示すだけでなく、ぬいぐるみに、もと値と割りびきの関係を3枚のメモ(①1800円の値札②1800円の値札と30%引きのメモ③1800円の値札と50%のメモ)を提示する。そのことで、30%びきはもと値より安く50%びきの値段より高い、という結果の見通しを立てやすくし、正答を導きやすいようにしたい。

- 児童の考えを把握する座席カルテの活用 (自力解決)

もとの値段から、割りびきをして考えているかどうかを把握する。その際、先に割りびきの値段を求めてもと値から引いているか、あるいは、割りびいた割合を求めてもと値と比較しているか、について詳しく見ていく。自分の考えができたなら、分かりやすく友達に説明できるように、言葉での説明の仕方を考えさせたり、他の求め方について考えさせたりする。また、発表の場でそれぞれの意見の交流ができるように、児童の考えを広げるための準備をしておく。


割りびきってなんだろう?
例えば・・・



- ・安くなる。
- ・もとの値段ではない。
- ・10%にあたる値段ではない。

【問題】
ともこさんは、1800円のぬいぐるみを30%のねだんで買いました。
代金はいくらですか。

↓ 30%びきってどのくらい?



半額になるね。

1800円	1800円	1800円
	↓	
	30%びき	50%びき

めあて割りびきがある代金の求め方を考えよう。

○ 考えを高めるカギの活用（独立型交流）

カギの「にているところ」を使い、割りびきは割合を引いて求めることに気づかせる。また、誤った考えを用いることで、割合をそのまま用いるのではなく、もとの値段からの関係に注目して計算したらよいことをまとめる。

3 学習過程

配時	学習活動	指導の意図と手立て（※個に応じた手立て）	評価の観点
5分	1 は っきりつかもう。 (1) 「割りびき」の言葉の意味を知る。 (2) 学習問題を知る。	○日常生活の中から、割りびきに関する事例を確認する。	
	問題 ともさんは、1800円のぬいぐるみを30%びきのねだんで買いました。代金はいくらですか。		
20分	2 こ んなめあてでやってみよう (1) めあてを確認する。	○問題文の中で分かっていることを確認する。 ○これまでに学習した問題とどう違うか考えさせ、めあてを確認する。	
	めあて 割りびきがある代金の求め方を考えよう。		
	(2) 見通しを立てる。 (結果) ・ 1800円より安い。 ・ 半額の値段の900円より高い。 (方法) ・ 割りびきだからひき算を使う。 ・ 比べる量の求め方を使う。	○答えがどのくらいになるかという結果と、解法していくための方法に着目して、見通しを立てるようにする。 ○30%びきの値段がどのくらいにあたるかを考えるため、もと値と50%びきの値段を例にだして、結果の見通しを立てやすくする。 ※座席カルテをもとに机間指導を行い、支援する。	○見通しを立てられているか。
	(3) 問題文をもとに線分図に表す。 (4) 代金を求める。	○解法の手がかりになる線分図に表すことで、代金をもとの値段と割合から求めることに気づくことができるようにする。 ○座席カルテに児童の考えを記入して把握する。 ○予想される反応は、次のとおりであろう。 ア もとの値段の30%の値段を引いて買えるということ。 $1800 \times 0.3 = 540$ $1800 - 540 = 1260$ <u>答え 1260円</u> イ もとの値段の70%の値段で買えるということ。 $1 - 0.3 = 0.7$ $1800 \times 0.7 = 1260$ <u>答え 1260円</u>	○問題文と線分図を対応させながら、数量の関係を考えられているか。

15分	<p>3 さあ発表しよう。</p> <p>(1) 解決の結果を話し合う。</p>	<p>○30%の値段を出している解答を出すことで、誤答に気付けるようにする。</p> <p>○考えを高めるカギの共通点を明らかにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>考えを高めるカギと話し合わせ方（独立型交流）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;">アの考え</td> <td style="text-align: center; width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;">イの考え</td> <td style="text-align: center; width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;">間違っただけ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> カギ① 似ているところ どちらも割りびきを ひき算で表している。 </td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> カギ② ちがうところ 割りびきをしていない。 </td> </tr> </table> </div> <p>○間違っただけを提示することで、差を含む割合の計算の仕方を確認する。</p>	アの考え	イの考え	間違っただけ	↓	↓	↓	カギ① 似ているところ どちらも割りびきを ひき算で表している。		カギ② ちがうところ 割りびきをしていない。	<p>○共通点を理解しているか。</p>
アの考え	イの考え	間違っただけ										
↓	↓	↓										
カギ① 似ているところ どちらも割りびきを ひき算で表している。		カギ② ちがうところ 割りびきをしていない。										
5分	<p>4 きちんとまとめよう。</p> <p>(1) 割りびきがある代金の求め方についてまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 割りびきがある代金は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割りびきのねだんを求めて、もとのねだんから引いて求める。 ・もとのねだんのどれだけかを考えて求める。 </div>										
	<p>(2) 適用問題を解決する。</p> <p>(3) 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>○教科書P.46の問題③に取り組ませる。</p> <p>○追求性に関する観点で感想を書くようにする。</p> <p>※書きにくい児童には、値びきするときの計算の仕方を発見したよさを書くように、個別に支援する。</p>	<p>○次時への学習への意欲が見られるか。</p>									

4 学習構造図

